2020

島根県立津和野高等学校
令和２年度

総合的な探究の時間
【T-PLAN】実践報告書

T-PLANとは

津和野高校は、津和野町唯一の高校だ。

津和野高校では、統廃合の危機をきっかけに「高校魅力化プロジェクト」が始まり、2013年度に高校魅力化コーディネーターを配置。
8年経った現在、町営英語塾HAN-KOHによる学習支援、全国に向けての生徒募集、地域系部活動グローカル・ラボなどの様々な取り組みが生まれ、全国から生徒が学びにきている。

その中でも特徴的なものが、地域の大人たちを積極的に巻き込んだ「総合的な探究の時間」の取り組み【T-PLAN】である。

生徒が自ら活動を選択し、興味・関心を育み、自分の問題意識に基づいて行動し振り返る「学び」を実践する。こうした取り組みを通じ、「自ら考えて学ぶ」。そして何より「やってみたいこと」や「なりたい自分」を声に出す力が育まれている。

【T-PLAN】の取り組みは授業内外・学校内外の有機的なつながりを生み、生徒が主体的に活動に取り組む姿が町の様々な場所で見られるようになっている。

この報告書は、令和2年度の津和野高校「総合的な探究の時間」【T-PLAN】実践内容の報告と、成果・課題の検討を目的として作成するものである。

目次

I 総評・活動概要 … 03

II T-PLAN の進化・深化 … 04

III 生徒の学び・変化 … 05

IV 課題・これから … 06

V １年｜ブリコラージュゼミ … 07

VI １年｜トークフォークダンス … 09

VII ２年｜プロジェクト活動 … 11

VIII ３年｜3年間のまとめ・発表 … 13

IX 謝辞 … 15

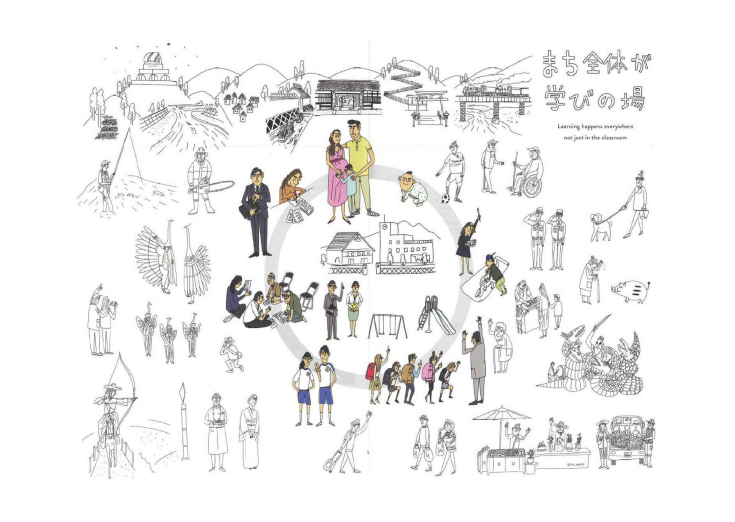
総評・活動内容

［総評］

令和2年度は、新型コロナウイルスが猛威をふるう中、生徒の学びの機会や津和野の強み・【T-PLAN】の強みをいかに守るか、挑戦の１年であった。

地域に開かれている・多くの方々と関われるという津和野の強みは、そのまま感染拡大のリスクに繋がりかねない。

担当者も交代し、教職員・地域の方々とともに活動を発展させていく上で、重要な１年となった。



［活動内容］

学年	活動名	概要	実施時期	時間数	育てたい資質・能力
1学年	オリエンテーション	アイスブレイク T-PLANガイダンス	7月	2コマ	豊かな感性 ・ 寛容な心 ・ コミュニケーション力 ・ 自己理解
	ブリコラージュゼミ ＋　ふりかえり	地域の方が講師に立つ 選択制体験講座	10.11月 計3回	12コマ (4コマ×3回)	
	トークフォークダンス ＋　ふりかえり	生徒と大人1対1の 対話と出会いの場	12月	12コマ (3+3コマ)	
2学年	ガイダンス ＋　テーマ設定	2年次活動説明 個人面談・テーマ設定	9月	4コマ (1+3コマ)	挑戦する意欲 ・ コミュニケーション力 ・ 豊かな感性・行動力 ・ 当事者意識 ・ 自己理解
	プロジェクト活動 ＋　各ふりかえり	生徒が各々の興味関心に 合った活動に取り組む場	10~1月 計６回	18コマ (3コマ×6回)	
	プロジェクト活動 報告	活動内容と学び・変化の プレゼンテーション作成	3月	3コマ	
3学年	2年間 総ふりかえり	2年間の活動を深堀り 抽象化・意味づけ	7月	9コマ (3コマ×3回)	表現力 ・ コミュニケーション力 ・ 豊かな感性・自己理解
	オープンスクール発表 ふりかえり	中学生に向けて活動と 学び・変化について発表	8月	3コマ	

II

T-PLAN の 進化・深化

T-PLANを正式に体系だったプログラムとして実施して３年目となる。
特筆すべき今年度の取り組みとして、以下の３つを挙げたい。

1 ｜ ３年間の系統プログラムへ

今年度、3年次で【T-PLAN】の実践を行い、初めて3年間の系統だったプログラムの実践が実現した。今後は、さらに学年ごとの取り組みの繋がりを深め、効果的な相互作用を作っていきたい。

2 ｜ 資質・能力と評価への挑戦

令和4年度の学習指導要領改定に伴い、学校のグランドデザインに紐づけた「総合的な探究の時間」で伸ばしたい資質・能力についての議論を進めた。
また、成果ではなく変容に重きを置いた評価について、選択式と記述式を併用した評価に挑戦した。

3 ｜ ICT環境の整備・活用

2020年度、津和野高校全校にWiFi環境が整備され、生徒が1人1台Chromebookを持つようになった。この環境を活かし、成果物のポートフォリオ化、自己評価結果の紐付けと分析、トークフォークダンス(後述)の感染症対策のため６拠点分散開催などに取り組んだ。

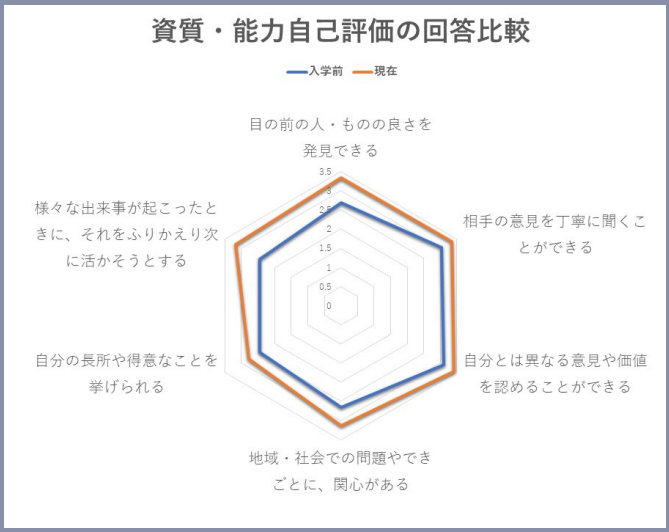
III

生徒の学び・変化

【T-PLAN】実践を通して、生徒にどのような学びと変化があったのか。
生徒の自己評価を中心とした評価方法の開発を進めている。

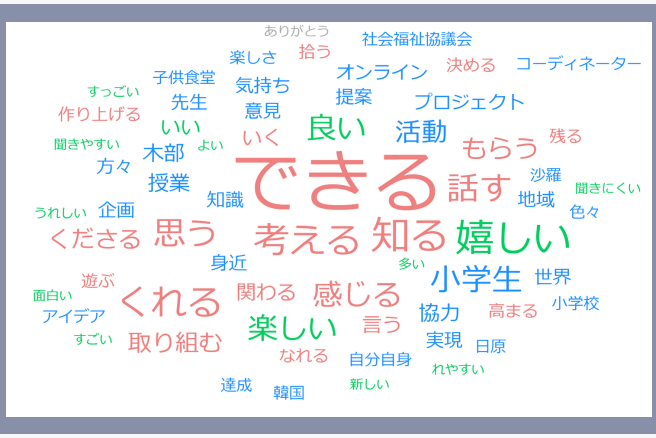
1年 1st Grade 資質・能力自己評価の変容

１年次【T-PLAN】で伸ばしたい資質・能力を選出し、その変化を４段階の自己評価で測った結果、すべての項目で平均値の上昇がみられた。また、自己評価が下がったとしても、自己理解が深まった結果であれば、意味があると考える。
生徒の自己評価を深める一助として、引き続き評価方法の開発を進める。



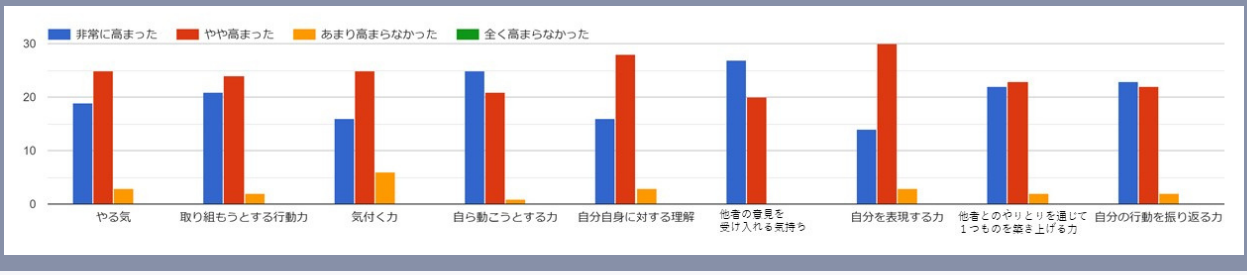
2年 2nd Grade ふりかえり テキストマイニング

プロジェクト活動での学び・変化を問うたテキストマイニング。「○○できる」「○○を知る・考える」という文章が最も多かったとわかる。



3年 3rd Grade 3年間の学び・変化の自己評価

【T-PLAN】を通じて、伸ばしたい資質・能力に変化があったか否かを自己評価した。項目や評価の頻度について、さらに検討を重ねたい。

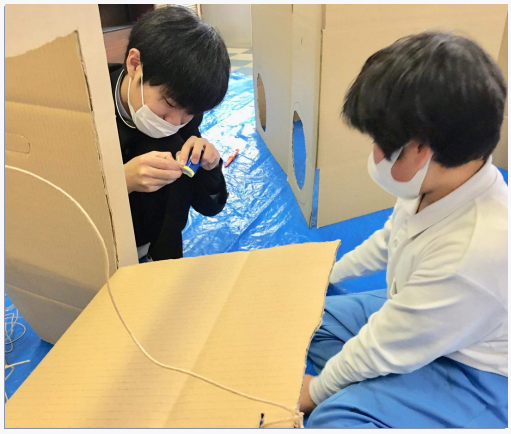


IV 課題・これから

社会が大きく変動する現代において、生徒に主体的・対話的・深い学びを提供するために何ができるか。令和４年度の学習指導要領改訂とそれに伴う学校の変化とどう結びつけていくか。令和２年度に生じた課題と、今度の展望を述べる。

運営体制

令和４年度の新コース設立に向けて、学校内外の持続可能な運営体制を構築する必要がある。そのため、令和３年度は校内体制の整理と、校外における中間支援組織*の設立を進める。



資質・能力と評価

【T-PLAN】が生徒の資質・能力を伸ばしているか、評価をどのように行うか、引き続き検討する必要がある。令和３年度も、定量的評価・定性的評価の双方を活用した開発を進める。

プロジェクト運営

様々な活動の中でも、２年次のプロジェクト活動の運営方法が大きな課題である。情報伝達やサポートをより円滑にするため、令和３年度はゼミ形式の運営を試行するなど改良を重ねる。

* 令和３年４月１日に
中間支援組織
「一般財団法人つわの学びみらい」設立

V

1年｜ブリコラージュゼミ

［由来］「ブリコラージュ」とは、フランス語で「日曜大工」という意味。
津和野のひと・こと・ものを組み合わせて講座を作り、生徒に届けるのが「ブリコラージュゼミ」だ。

［概要］・１年生が五感を使って学ぶ、選択制の体験型講座
・生徒は各自で受講したい講座を選択する
・地域の方々が講師を担当する

▲「牛に会いに行こう」

▲「わたしのためのMYCHAづくり」

3
回開催

▲「ファッションから考える自分らしさ」

▲「アドベンチャー体験」

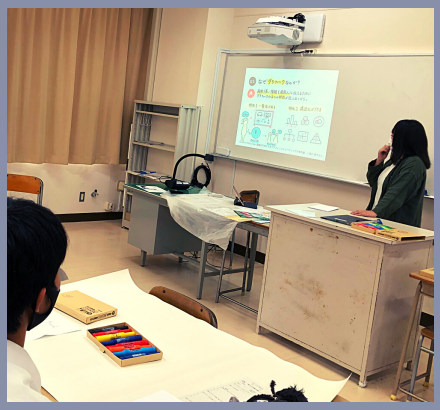
［目的］・生徒に様々な体験や町の大人との出会いを届けること
・生徒が「身近に自分の可能性を広げてくれる人や場所がある」と気づくきっかけを作ること
・生徒が自分の興味関心や自分の感情がどんなときに動くのかを知り、自己理解を深めること

ブリコラージュゼミ講座一覧

VOL. 1 2020.10.12
VOL. 2 2020.10.28
VOL. 3 2020.11.13

▲「初秋サイクリング」

▲「マダガスカル料理の世界」



▲「グラフィックレコーディング」

グラフィックレコーディング入門	メロンパーク農業体験	地域課題をわがままに考える	ブレイクダンサーのダイエット講座
Feel℃ Walk 五感で町歩き	世界のアニメーション	町の中心部・議会に潜入	校長先生と書道家体験
SDGsって何だろう？	初秋サイクリング	津和野の食を知ろう	呉服屋さんで着付け入門
メロンパーク農業体験②	わたしのためのMYCHAづくり	ファッションから考える自分らしさ	韓国語独学入門
木のストーリー林業体験	革キーホルダーづくり	アイドルから見る日本社会	アトリエづくり
ロックミュージック入門	旅するコラージュマップづくり	ファッションから考える自分らしさ②	秀翠園 五感で学ぶお茶の世界
難民の方々と話そう	空き家改修に挑戦！	木のストーリー林業体験②	メロンパーク農業体験③
マダガスカル料理の世界	アドベンチャー体験	牛に会いに行こう	

31 講座開催

VI

1年｜トークフォークダンス

［由来］　トークフォークダンスとは、地域への愛着やコミュニケーション能力を育むことを目的に、福岡県福津市福間中学校のコミュニティスクールから始まり、全国に広がりつつある取り組みである。

［概要］・１年生と地域の方が同数集まり、対話を繰り返す
・コミュニケーションと出会いの場
・学びを語るふりかえりの場

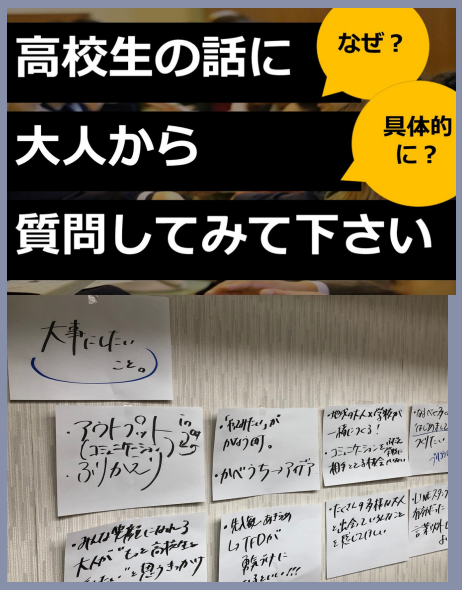
90
名参加

［目的］・コミュニケーションに対して前向きになり、能力が向上すること
・生徒が「身近に自分の可能性を広げてくれる人や場所がある」と気づくきっかけを作ること
・授業で得た学びや変化を相手に伝えることにより、自己理解を深めること

◆今年度の特筆すべき取り組み

❶教職員と地域住民の協働	❷ふりかえり要素の追加	❸ICT活用6拠点分散開催
・話すテーマや構成を教職員・地域住民が熟議して決定 ・公民館など社会教育関係者の全面協力による参加者募集	・ブリコラージュゼミによる体験・学びのアウトプットの場として活用 ・大人の方々の質問により自己内省が深化	・Chromebookで資料作成を行い、ポートフォリオ化 ・感染症対策のため6拠点をオンラインでつないで場を共有

▲ブリコラージュゼミによる体験・学びを発表する様子

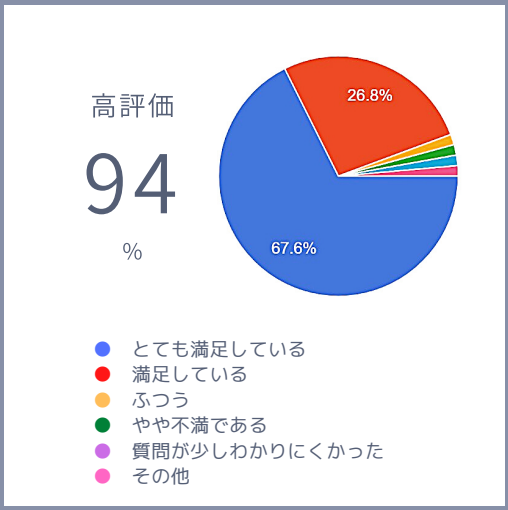


▲(上)当日スライド・(下)議論の様子

◆高校生ふりかえり

「同じ話題でも、考え方はみんな違って様々なんだと知りました。聞いていても話していても楽しかったです」
「自分ってこんなに話せるんだと驚きました」
「自分がどんな大人になるかまだ想像ができません。だから、今を大事に生きていきたいです」
「大学や仕事を選ぶときは、有名か無名かではなく、自分がやりたい・やりがいを持てるところを選ぼうと思いました」

◆地域参加者満足度



VII

2年｜プロジェクト活動

［定義］　「今」を「理想」に近づける行動を伴うものを「プロジェクト」と呼んだ。課題解決のフレームワークを応用。成果物は求めず、はじめに描いた「理想」にたどり着けない場合も良しとした。

［概要］
- 個々の興味関心に応じたプロジェクトに取り組む
- 地域の方発案の「依頼型」プロジェクトと生徒発案の「自発型」プロジェクトの２種類を実施
- 町内外の多くの方々の協力により成立

28
種類

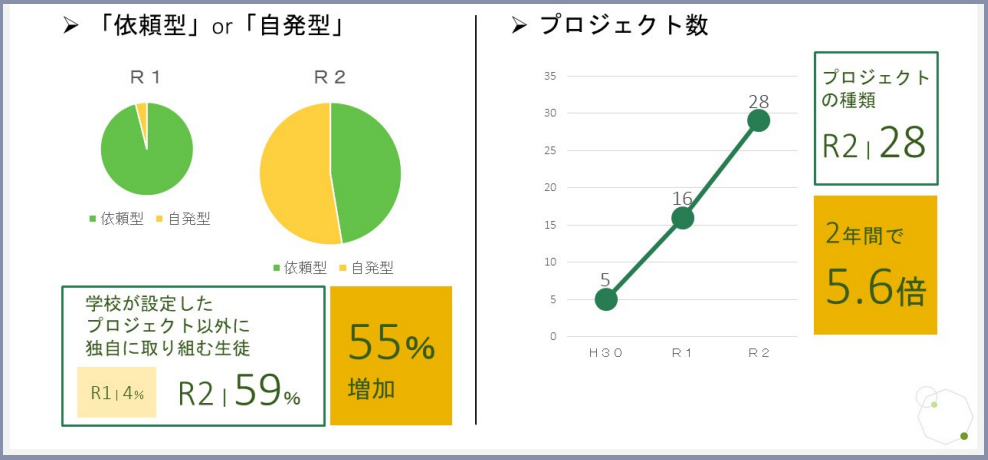
▲高校生と小学生が企画した子ども食堂の様子　▲(上)マネージャーサミット・(下)授業風景

［目的］
- 興味関心に応じた様々な挑戦を通して当事者意識を高めること
- 多様な価値観を尊重し、地域社会に貢献する態度を身につけること
- 自ら考え学び行動し、他者と協働する力を身につけること
- 活動の結果ではなく自らの変容をふりかえることで、自己理解を深めること

◆プロジェクト活動に起きた変化

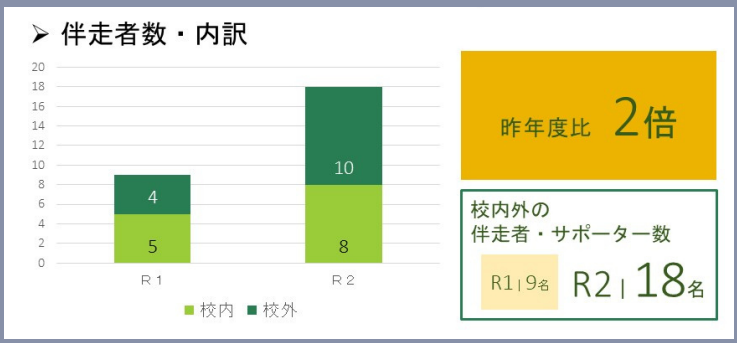
1 ｜ プロジェクト種類・数の変遷

地域の方発案の「依頼型」が大多数であった昨年度に対し、令和２年度は生徒発案の「自発型」が55%増加した。また、プロジェクトの総数は３年間で5.6倍に増加し、各々の興味関心に応じたテーマ設定・個別最適化が進んでいる。



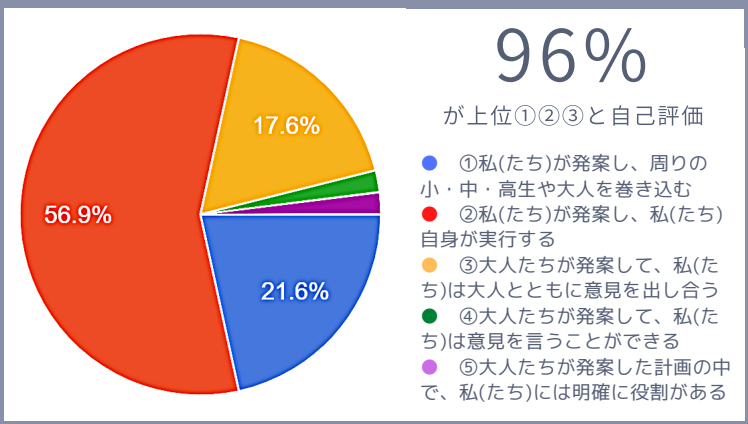
2 ｜ 伴走者数の増加・多様化

津和野高校では、プロジェクトに取り組む生徒に寄り添う大人を「伴走者」と呼ぶ。今年度は、プロジェクト数の増加と多様化にともない、地域からも伴走者を募った。



3 ｜ 生徒の当事者意識の数値化

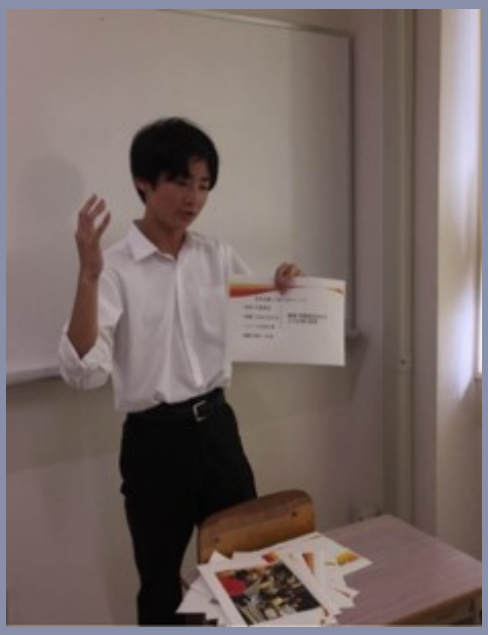
プロジェクトに対する当事者意識の高低について、環境心理学・発達心理学者のロジャー・ハート「参画のはしご」になぞらえた自己評価を８段階で行った。その結果、上位３つを選択した生徒が96%にのぼった。

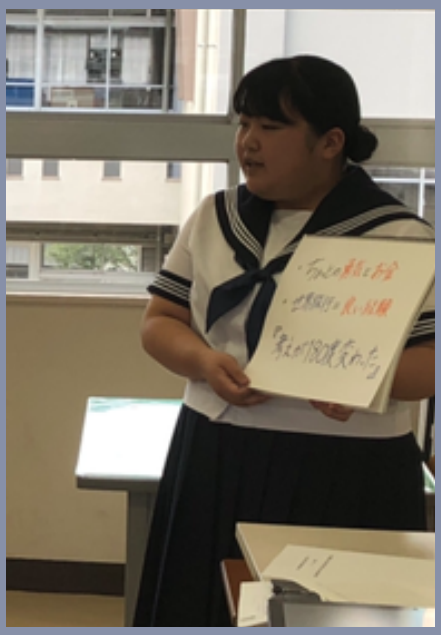


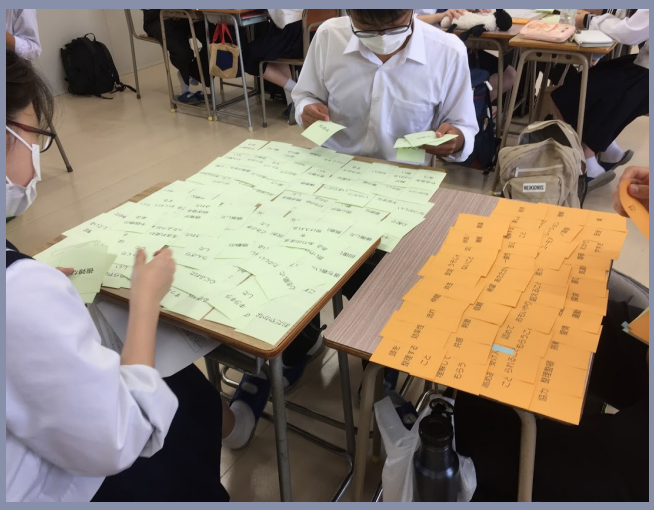
VIII

3年｜3年間のまとめ・発表

［概要］・オープンスクールに来る中学生を対象に、３年生が３年間の【T-PLAN】における学びと変化を発表
・１人１回ずつ、様々な発表形式を自分で選択







［目的］・３年間の学びと変化を内省し言語化する
・伝え方の工夫を重ねることで表現力を高める
・自らの学びを人に伝えることによって、自己理解を深め、その先の進路選択に活かす

◆プログラム３ステップ

❶行ったこと学びを書き出す	❷カードを使ったふりかえりの深化	❸複数リハーサルフィードバック
３年間のふりかえりの蓄積をもとに、それらを俯瞰して共通点や今だから気づくことなどを書き出す	NVC*の手法を応用し、起きたこととその時の感情、その感情がなぜ沸いたか、根本で何を大切にしていたからかを対話する	同級生の前で発表するリハーサルとそのフィードバックを計３回行い、発表内容・発表方法をブラッシュアップする

*NVC … 1970年代に、アメリカの臨床心理学者マーシャル・B·ローゼンバーグ博士によって体系化・提唱された手法。「Nonviolent Communication＝非暴力コミュニケーション」

◆高校生ふりかえり

Q.【T-PLAN】を通して自分のどのような部分が変わりましたか。

■高校に入る前は、自分の好きなことしか興味がなかったけど、【T-PLAN】を通して、様々なことに興味を持つようになり、知りたい・学びたいと思うようになった。興味を持ったものを深く学んだとき、自分の知識が増えてさらに深く学びたいという意欲が出てきた。

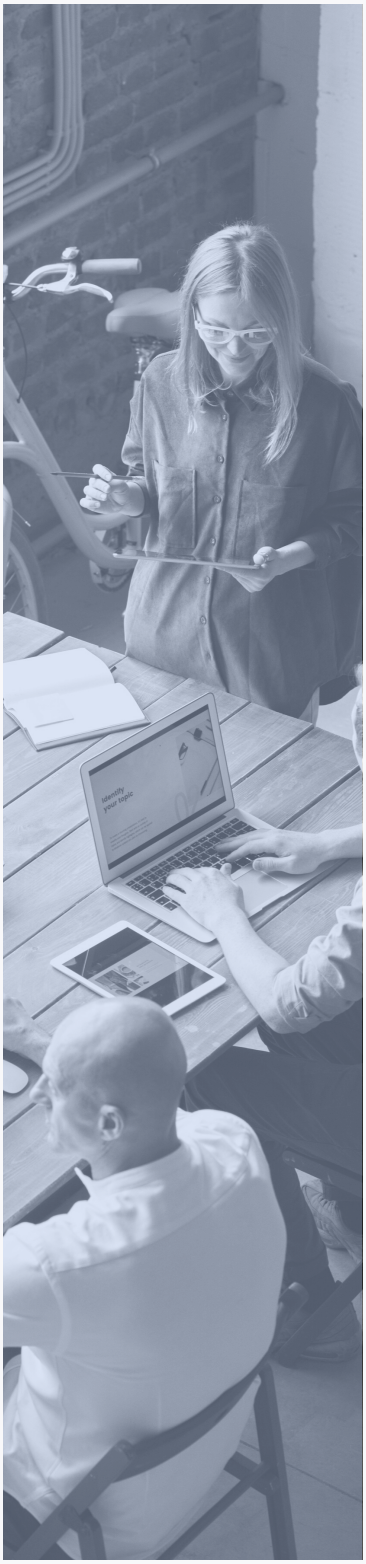
■以前は、何かを考えるときに「自分」「相手」といった少ない立場から考え案を出していたのですが、総合学習を通して「自分」「相手」「利用する人」「年代」など、多くの視点から考えるようになりました。具体的には、空き家の活用法を考えるときに、「自分たちは何がほしいのか」「津和野には何がないのか」など様々の視点から考えることができました。

Q.【T-PLAN】を通して、自分自身に対する認識についてどのような部分が変わりましたか。

■高校に入学するまでは、自分は口だけの人間だったと思います。「～をやりたい！」と意気込んでも言うだけで行動に移すことをしませんでした。しかし授業という形なので嫌でもやらないといけないので逆にそれがよかったと思います。そのため以前より成長できて色々なことにチャレンジできるような人間になれたと思います。

■自分自身が思ったより人と話すのが好きだったり、意外と人見知りせずに話せるんだなということを知りました。高校に入学するまでは、私が何か動いたところで何も変わらないと思っていたけれど、他の人とのつなぎ役であったり、協力していけば少しづつでも物事は変えることができるんだなと、感じることができました。

IX 謝辞



【T-PLAN】を実施するにあたり、大変多くのご協力・ご支援をいただき感謝いたします。

■ブリコラージュゼミ学外講師の皆様

青木克彌様・アリソン・サッフェル様・石川姫歌様・大田慶様・太田幸輔様・岡崎里絵様・糟谷直輔様・片山春花様・リコッタ瑠美様・國方あや様・末田修司様・住田桃子様・高須千穂様・田中懸志朗様・津和野町議会の皆様・津和野林産の皆様・内谷愛様・中村純二様・林幸一様・布施千暁様・舟山宏輝様・松田智様・メロンパークの皆様・森本貴満様（五十音順）

■トークフォークダンス参加者募集にご協力いただいた皆様

■トークフォークダンスにご参加いただいた皆様

■プロジェクト活動伴走者の皆様

■プロジェクト活動ご協力者の皆様

■津和野高校生・津和野高校教職員に関わり支えてくださるすべての皆様

島根県立津和野高等学校

〒699-5605
島根県鹿足郡津和野町後田 ハ１２－３

TEL 0856-72-0106
HP http://tsuwano.ed.jp